

2-3 小学校における GIGA スクール端末利用の現状視察と学生による提案

小中一貫教育を進めるためのツールとしても可能性のあるタブレット端末等が 2021 年 6 月頃から本格的に使用され始めた。そこで、導入から 1 ヶ月後の 7 月に文京台小学校と江別第二小学校での活用状況について視察し、文京台小学校にて大学生から活用方法の提案を行った。

(1) 使用状況の視察結果

【保管や機器の立ち上げ】

機器は学級で充電機能のついた保管庫に保管していた。番号を決めて端末ごとに保管する位置まで管理している学校もあるが、特に設定していない学校もある。児童は保管庫から端末を取り出し、自分専用の QR コードが付いたカードをカメラにかざし、ログインして使用する（図 5）。



図 5 保管庫からタブレットを出す様子（左）と QR コードでログインする様子（右）

【調べ学習も自分の机上でできる】

授業の中では、インターネットに接続して調べ学習をするというスタンダードな活用もされている（図 6）。ただ、これまでのように、わざわざパソコン室に行くのではなく、必要なときに自分の机の上で調べることができるため、学習活動に無駄がない。



図 6 タブレット端末で調べ学習をする様子

【ファイルの保存・共有はクラウドで】

図 7 はクラウド上に保存された自分の作成したファイルファイルをタップして、開いているところである。Chromebook は基本的にタッチでの操作もできる仕様となっているので、感覚的に操作方法を身につけることができるようだ（図 7）。



図 7 ファイルを立ち上げる児童の様子

【児童の発想による活用も】

江別市では、使用に関してあまり細かくルールを定めないことにしており、できるだけ活用を促すようにしている。他の地域の先進事例などからも、ルールで縛らずに積極的に

活用させることは、児童による新しい使用方法の発想が生まれ、好循環につながる。図8は、児童が自分でわからない漢字の書き方を調べている様子である。また、調べ学習で発見した良いサイトの情報を共有する様子も見ることができた。



図8 漢字を調べている児童（左）とサイトの URL 情報を QR コードで共有する様子（右）

自分で調べたサイトの URL を QR コードで表示し、それを他の自動が自分の端末のカメラで読み取るなどの工夫があった。

【アナログとの融合】

情報機器はあくまで道具であり、もともと行うべき学習をより深めるために活用することが望ましい。図9は図工の時間にクレイアニメーションを作成している様子である。小麦粉粘土を使って造形物を表現したり、ストーリーの表現をしたりする活動が学習の中心だが、ICT を活用することで上手にサポートしている。



図9 左で作った造形物に、右のようにタブレットでアニメーションにし、命を与えている。

自分で調べたサイトの URL を QR コードで表示し、それを他の自動が自分の端末のカメラで読み取るなどの工夫があった。

【自己評価の道具として】

体育の学習では、幅跳びや逆上がりなど、動きの難しい運動で、自分自身のフォームをチェックし、改善するために利用していた（図10）。ただし、野外で使用する際の安全ケース等は配備されて



図10 自分たちの運動の様子を記録し、振り返る。

おらず、端末の破損が増えるのではないかと心配する教員の声もあった。

【その他の活用事例】

他にも以下のような活動がすでに始まっていた。

- 音楽を作曲できるアプリを使って、作曲する活動（音楽）
- ワーク機能を使って、計算の復習をする活動（算数）
- 実験の様子を録画して、何度も観察する活動（理科）
- 自分の目標やプロフィールをまとめる活動（特別活動）
- 朝の健康観察を Googleform に入力する（学級経営）

また、休み時間に Meet（テレビ会議システム）を使って、友達同士で校舎内探検をしたり、放課後に自宅から、自宅の PC を使って自分のアカウントにログインし、Meet でおしゃべりしたり、新型コロナウイルスの濃厚接触者となってしまう、自宅待機の中でも Meet で授業に参加したりするなどの事例も見られた。ただし、日常的な端末の持ち帰りができる、より学びのあり方が深められるので、持ち帰りを許可してほしいという声も教員から聞くことがあった。

(2) 学生による ICT 活用事例提案会【概要】

①日 時 令和 3 年 7 月 27 日（火）13:00 ～14:30

②場 所 江別市立文京台小学校（江別第二小学校は遠隔中継により参加）

③目 的 教育学科 4 年が履修している「小学校教育研究Ⅲ」という科目において、小学校に導入された GIGA スクール端末の活用方法について検討した GIGA 端末の活用プランについて、実際に小学校教育現場にて活躍している教員に提案し、意見交流を行う。

④内 容 東 駿哉「グーグルサイトの可能性」
井波義幸「端末を家庭に持ち帰ることの是非」
大越 奎「SKYMENU でできること」
山田寧々「スライドや Jamboard で広がる共同作業」

各発表を 10 分行い、その後 10 分教員からご意見・ご指導いただいた（図 11）。



図 11 学生 4 名による ICT 活用事例提案会の様子（画面は第二小学校にも共有されている）

3. 研究事業のまとめ・提言

- (1) 主に江別市内の小中学校教員、保護者、一般市民、学生、大学教員を対象とした「江別市小・中学校一貫教育フォーラム」を開催した。フォーラムでは先行地域の良事例等を共有し、江別市が今後小中一貫教育を進めていく上での課題を参加者が確認することができた。また、教員の不安等についても抽出することができた。
- (2) 江別市内の学びの連続性を高めるために、ICTの活用実態について調査し、大学生によるICTの活用方法に関する提案を行うことができた。
- (3) フォーラムで明らかになった課題やICTの活用実態から、江別市の学びの連続性を高めるために、次の提言をまとめる。

【 提 言 】

1. 令和4年度から第二中学校区で先行実施する小中一貫教育の準備状況として、現状では、担当職員のみを頼っており、導入の意義や目的が多くの教員に理解されていない可能性がある。また、地域や保護者を置いてきぼりにした推進となっている可能性もある。小中一貫教育が、導入することが目的となり、教員の負担増だけで終わらないように、「一貫教育導入の意義や目的」をあらためて整理し、教職員・保護者・地域住民への周知方法を見直すとともに、一体となって関わる意識の向上に努めなければならない。
2. 教職員や保護者、地域住民に「一貫教育導入の意義や目的」が浸透していない理由として、江別市及び各中学校区で育成したい子ども像が曖昧で、一貫教育の明確な目標設定がされていないことが挙げられる。教職員・保護者・地域住民への周知にあたり、江別市および各中学校区として、児童生徒の実態把握と情報共有に努め、教職員・保護者・地域住民が協働して育成したい子ども像や目標の設定を行うべきである。
3. 小中一貫教育を進めるにあたり、現場の多忙感は否定できない。原因として、現状の学校教育体制の見直しは行わず、追加政策としての小中一貫教育の導入となっているのではないだろうか。小中一貫教育を推進するために、目的を同じくするコミュニティ・スクールやPTAなどの既存の組織の見直しや、施設分離型でも協働できるようなICTの積極的活用を推し進めるインフラ整備、そして一貫教育の導入段階で必要な人的補強を行うべきである。

4. 資料

4-1 江別市小・中一貫教育推進フォーラム案内文書（表面）

令和3年度
江別市大学連携調査研究事業

二次案内

江別市 小・中学校 一貫教育推進 フォーラム

江別市でも小中一貫教育が
いよいよ始まります！

第二小・中学校区
(令和4年度から)
市内全小・中学校区
(令和5年度から)

教員・保護者だけでなく、
様々な立場の皆様からの
参加申込をお待ちしています！

	13:00	30	13:50	30	40	15:20	30	50	16:00
2022 1月 11	接 続	開 会	全 体 会①	基 調 講 演	休 憩 ・ 接 続 変 更	分 科 会 詳 細 は 裏 面 参 照	休 憩 ・ 接 続 変 更	全 体 会② 分 科 会 報 告 総 括	閉 会

基調講演の開始時間を、
一次案内から変更しております。

基調講演 9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ小中一貫教育

小中一貫教育の先進地 京都市教育委員会 首席指導主事 吉川康浩 氏

コミュニティ
スクールとの違いは？

何が
変わるの？

家庭での準備
は？

中学校の先生が
小学校で教えるの？

新しい学校を
作るの？

PTAは
どうなるの？

子どもにとっての
メリットは？

先生たちの負担は？

主催：北翔大学「江別の学びの連続性に関する研究グループ」
共催：北翔大学北方圏学術情報センター
後援：江別市PTA連合会

※本フォーラムは北翔大学北方圏学術情報センターの連続市民講座としても実施しております

4-2 江別市小・中一貫教育推進フォーラム案内文書（裏面）

「江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム（江別市大学連携調査研究事業）」（二次案内）

1. 目的
全国的に推進が行われている「小中一貫教育」に関心のある皆さま（教職員、保護者、教員を目指す学生、市民の皆様）の理解を深めるとともに、江別市において令和4年度から本格的に導入を始める「小中一貫教育」のあり方について、多様な立場の参加者から生の声を集めることで疑問や課題を共有し、地域の未来を担う子ども達への教育の充実に資する。
2. 会場
Zoom等によるオンライン開催（申し込みされた方に、メールにて接続URLをお知らせします）
※各分科会はブレイクアウトルームにて行います（接続は係がサポートします）
3. 参加対象
小中一貫教育に関心のある教職員及び保護者、一般市民の皆様、大学生
4. 開催日時
令和4年1月11日（火）13:30～16:00 ※日程は表面参照
5. 全体会の内容：
全体会① フォーラムのねらい説明、江別市が始める小中一貫教育について
全体会② 分科会報告と総括（今後の江別市小中一貫教育における課題の洗い出し）
6. 分科会の紹介

※ 1, 2, 3分科会は教職員・学生のみ参加対象です。
4, 5, 6分科会は上記に加え、保護者や地域の皆様など、多様な立場の皆さんが参加対象です。

1 一貫教育を推進するための環境整備

明日を担う子どもたちの成長に向けて、小中一貫した教育をどのように推進していくのか。札幌市の小中一貫した教育の事例を紹介しながら、課題も含めて推進のポイントについて交流していく分科会です。みなさんの参加をお待ちしております。

（担当：北翔大学教授 西出 勉）

2 教科指導における一貫教育

小中の教科指導でどうしても生まれてしまう「指導のズレ」や「教え方の違い」。そういった教科指導における「小中ギャップ」の解消を目指して、小中一貫した教科指導の方向性を探っていく分科会です。みなさんの参加をお待ちしています。

（担当：北翔大学講師 杉浦 勉）

3 生活指導における一貫教育

「子どもたちの夢をかなえる“中学進学”を！」期待と不安でむかえる中学校への進学。小学校と中学校の先生方がひとつのチームになることで、何ができるのか？これまでやってきたこと、これからできることを、子ども目線で考える分科会です。

（担当：北翔大学教授 三浦公裕）

4 児童・生徒理解における一貫教育

児童生徒の支援・配慮に関わる情報をどのように引き継ぎ、子どもたちの支援をつなげることができるのか、札幌市の「サポートファイルさっぽろ」や土幌町の育ちと学びのサポートファイル「ほろっと」などを活用した事例について紹介します。

（担当：北翔大学准教授 石塚誠之）

5 ICT活用における一貫教育

ICTとは何？を改めて確認しながら一貫教育にどう活用していくのかを考える分科会です。児童生徒と小中教員 小教員と中教員 保護者と小中教員 保護者と児童生徒等のつながりを意識した取組について交流しましょう。

（担当：北翔大学准教授 二宮孝行）

6 保護者の協力する一貫教育

小中学校の9年間を通して、子ども達の成長を温かくサポートしたい！先生も保護者も関係なく、そんな思いをおもちのみなさんが意見交換できる分科会です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

（担当：北翔大学教授 横山 光）

7. 申し込みについて

参加申込は「令和3年12月20日（月）～令和4年1月7日（金）17:00」の間に、以下のURLをクリックするかQRコードを読み取り、フォームへ必要事項を入力してください。後日ZoomのURLを送付いたします。

参加申込みフォーム：<https://forms.gle/jSjrxmKJ3X59oip16>



8. 問い合わせ

北翔大学「江別の学びの連続性に関する研究グループ」
代表：北翔大学教育文化学部教育学科 教授 横山 光
mail: yokh4123@hokusho-u.ac.jp, tel:011-387-3953

4-3 江別市小・中一貫教育推進フォーラム全体会使用スライド

令和3年度
江別市大学連携調査研究事業

江別市 小・中学校 一貫教育推進 フォーラム

注意事項（ご確認ください）

- ・マイクとカメラはオフにしてください。
- ・表示されている氏名を「分科会番号+氏名」に変更してください。方法がわからない場合は、マイクをオンにして、運営スタッフに申し出てください。こちらで変更します。
- ・フォーラムは13:30から始まります。それまでそのままお待ち下さい。

表示名の変更方法

← PC
自分の画面右上にある「…」を押すと、名前の変更ができます。

スマホ・PC→
参加者を表示して、自分の名前を選択し、名前の変更ができます。

北翔大学
Hokkaido University of Education

1

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム
令和4年1月11日

開会式

主催：北翔大学「江別の学びの連続性に関する研究グループ」
共催：北翔大学北方圏学術情報センター
後援：江別市PTA連合会

2

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム

注意事項

1. マイク・カメラのミュートについて
全体会では基本的にオフにしてください。分科会では、運営者の指示に従ってください。
2. 質問等について
質問がある場合には、リアクションボタンにて挙手をしてください。また、チャット欄に質問を記入していただいても結構です。進行係が拾い上げて、時間の許す限りお答えいたします。
3. まだ表示されている氏名を変更していない方は、全体会①の終了までに変更作業をしてください。もし、変更がうまくできない方には、全体会①の終了後にお声がけいたします。

3

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム

全体会①

1. 本フォーラムのねらいの説明
2. 江別市の小・中一貫教育の概要
3. 基調講演
9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ小中一貫教育
京都府教育委員会 首席指導主事 吉川康浩 氏

4

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム 全体会①

1. 本フォーラムのねらい

【目的】
全国的に推進が行われている「小中一貫教育」に関心のある皆さまの理解を深めるとともに、江別市において令和4年度から本格的に導入を始める「小中一貫教育」のあり方について、**多様な立場の参加者から生の声を集めることで疑問や課題を共有し、地域の未来を担う子ども達への教育の充実に資する。**

→ ○不安や疑問の声を集めたい。
○先進地の皆さんからアドバイスをもらいたい。
○参加者同士の連携のきっかけとしたい。

6

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム 全体会①

2. 江別市の小中一貫教育の概要

【江別市における小中一貫教育の目的】
小学校と中学校が学習指導や生徒指導の課題や情報を共有し、義務教育の9年間において系統性と発達段階に応じた連続性をもって指導に取り組む。

↓
「目指す子ども像」の実現

- (1) 9年間継続した指導のもとで学習に取り組みます
- (2) 環境の急激な変化を緩和します
- (3) 児童・生徒の発達状況に合わせ、9年を通じた生徒指導を行います

7

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム 全体会①

2. 江別市の小中一貫教育の概要

【江別市における小中一貫教育の方向性】

- (1) 目指す子ども像を明確にする
- (2) 教職員研修を合同で開催する
- (3) 義務教育9年間の見直しを明らかにした指導計画を作成する
- (4) 現行の教育制度（6・3制）を基本とする中で、中1ギャップの緩和を工夫する
- (5) 地域とともにある学校づくりを推進する

【期待される効果】

- (1) 学習指導上の効果上がる
- (2) 生徒指導上の効果上がる
- (3) 教職員の意識改革が行われる
- (4) 異学年児童生徒の交流促進が行われる
- (5) 中学校登校を行うことで、児童が中学校の雰囲気馴染むことができる
- (6) 部活動体験・見学を行うことで、中学校入学後の部活動決定がスムーズに行われる

8

令和3年度 江別市大学連携調査研究事業
江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム 全体会①

2. 江別市の小中一貫教育の概要

【導入スケジュール】

R2 R3 R4 R5 R6

【導入スケジュール】

【各校区のイメージ】

9

1. 本フォーラムのねらい

【目的】
全国的に推進が行われている「小中一貫教育」に関心のある皆さまの理解を深めるとともに、江別市において令和4年度から本格的に導入を始める「小中一貫教育」のあり方について、**多様な立場の参加者から生の声を集めることで疑問や課題を共有し、地域の未来を担う子ども達への教育の充実に資する。**

- ○不安や疑問の声を集めたい。
○先進地の皆さんからアドバイスをもらいたい。
○参加者同士の連携のきっかけとしたい。

10

基調講演

9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ小中一貫教育

京都市教育委員会 首席指導主事 吉川康浩 氏

11

休憩

- zoomは**接続したまま**でお待ち下さい。
- 休憩時間中にzoom画面にブレイクアウトルームへの招待が表示されますので、参加のボタンをクリックしてください。自動的に分科会のルームに振り分けられます。
- 分科会の開始は14時40分です。それまでに、「参加」ボタンを押して移動し、開始時間まで接続したままお待ちください。
- まだ表示されている氏名を変更していない方は、変更作業をお願いします。うまくできない方にはこちらから声をかけますのでお待ち下さい。

12

全体会②

- 各分科会からの報告・情報共有
- 総括

14

閉会式

主催：北翔大学「江別の学びの連続性に関する研究グループ」
共催：北翔大学北方圏学術情報センター
後援：江別市PTA連合会

15

令和3年度
江別市大学連携調査研究事業

**江別市
小・中学校
一貫教育推進
フォーラム**

ご参加ありがとうございました。
チャット及びメールにてアンケート
フォームのURLを送信します。

最後に、アンケート入力のご協力を
よろしくお願ひします。

今後とも、子ども達のために一緒に
協力していきましょう！

北翔大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

16

4-4 江別市小・中一貫教育推進フォーラム基調講演スライド

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育

～義務教育9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ取組～

京都市教育委員会 指導部 学校指導課
吉川 康浩

40分

京都市教育委員会

キーワード
本日の内容 「つなぐ」

- 京都市の基本情報
- 小中一貫教育の流れ
- 小中一貫教育の取組
- 開かれた学校づくり

1

京都市教育委員会

京都市の基本情報

- ◆面積：827.9平方キロ〔南北：約50キロ、東西：約25キロ〕
- ◆人口：約147万人
⇒市内人口の半分以上が京都市民
- ◆行政区数：11行政区

【京都府】

【京都市】

2

京都市教育委員会

京都市の基本情報

- ◆京都市立学校数等：257校園（休校除く） 令和3年5月1日現在
- 園児児童生徒数：94,621人
- 京都市立幼稚園：15園〔園児数：730人〕
- 京都市立小学校：153校〔児童数：57,910人〕
- 京都市立中学校：64校〔生徒数：26,600人〕
- 京都市立小中学校：8校〔児童生徒数：3,064人〕
（義務教育学校）
- 京都市立高等学校：9校〔生徒数：5,215人〕
- 京都市立総合支援学校：8校〔児童生徒数：1,102人〕

- ◆政令指定都市が行う事務
- ・教職員の人事（任免、給与の決定、休職及び懲戒）
- ・教職員の研修
- ・教職員の給与支給、定数・学級編制基準（29年4月から現行標準とともに変更）

3

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【流れ】

- ◆構造改革特区の「小中一貫教育特区」認定
⇒学習指導要領の基準によらない教育課程を研究
- ・平成16年3月 大宅中・陶化中ブロック
【大宅】算数・数学一貫教育（小5～中1の弾力的指導カリキュラム作成）
小学校5～6年に英語科、中学校1年に英語表現科を設置
【陶化】小学校6年に英語科を設置
- ・平成18年3月 京都御池中ブロック
算数・数学一貫教育（小中9年間の弾力的指導カリキュラムの作成）
小学校6年に英語科を設置
- ・平成19年3月 花背小中学校
算数・数学一貫教育、小学校1～6年に英語科設置
⇒平成20年度から教育課程特例校に移行

4

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【流れ】

平成16年3月 「小中一貫教育特区」認定（特色ある小中一貫教育の推進）
16年度 全小中学校に小中連携主任を設置
18年度 教育委員会に小中一貫教育推進室を設置
「小中一貫教育全国連絡協議会」組織化

◆幹事：品川区 京都市、奈良市、呉市（正会員：平成30年1月現在52区市町村）
◆第2回（19年度）、第7回（24年度）、第12回（29年度）の全国大会は京都開催

19年度 京都御池中ブロック（京都御池中・御所南小・高倉小）取組開始
（5・4制施設併用型一貫校）
20年度 花背小中学校開校（4・3・2制施設一貫校）
小中一貫教育・京都市の5つの拠点を設定
小中一貫教育（推進）校を指定し、全行政区へ取組を展開
21年度 京都大原学院開校（4・3・2制施設一貫校）
23年度 全中学校ブロックへ小中一貫教育を展開
24年度 東山開成開校（4・3・2制施設一貫校）
26年度 凌風学園開校（4・3・2制施設一貫校）
東山京小中学校開校（5・4制施設併用型一貫校）

5

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【流れ】

平成27年度「京都市小中一貫教育ガイドライン」により、**小中一貫教育・京都市の5つの実践**を策定
28年度全中学校ブロックにおいて、
小中一貫教育構想図等を作成

30年度 市立義務教育学校条例の制定
義務教育学校（6校）の設置

令和元年度 義務教育学校の設置 ※向島秀蓮小中学校
2年度 義務教育学校の設置 ※京都京北小中学校
7年度 義務教育学校の設置予定 ※小栗栖中学校区
義務教育学校の設置予定 ※西陵中学校区
(4・3・2制施設一体型一貫校)

6

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【基本】

◆京都市の小中一貫教育の考え方
「小学校から中学校への学校生活の変化になじめないことが、子どもたちの学習や学校生活に否定的な影響を与える」という課題、いわゆる「中1ギャップ」解消や社会の目まぐるしい変化や子どもたちの心身発達の早期化などに対応し、児童生徒個々の能力を十分に引き出す点で非常に効果的である



特区の指定校→実際に不登校者数が減少するなどの効果

7

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【基本】

◆京都市の小中一貫教育の考え方
全教職員が小中9年間の学びと育ちに責任を持つ

↓

それだけではなく



家庭教育も含めた計画的・系統的な一貫教育を地域と一体となって行い、小中9年間の学びと育ちに責任を持つ

8

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育 5つの視点

◆小中一貫教育・京都市の5つの視点（平成21年3月策定）

I. 小中一貫教育目標	・小中学校で目指す子ども像を共有し、子どもたちの「生きる力」の育成を図る
II. 教育課程/指導形態の工夫・改善	・教育課程（カリキュラム）の編成や指導形態などの工夫・改善を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を目指す
III. 教育活動の連続性	・子どもたちの教育活動の連続性を高める 【例】児童生徒交流、部活動体験、合同宿泊行事
IV. 教職員間の連携・協働	・小中学校の教職員間の「連携」と「協働」を深める 【例】教職員合同研修会
V. 家庭・地域との連携・協力	・家庭や地域との「連携」「協力」をより一層推進する

9

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育 5つの実践

◆京都市小中一貫教育ガイドライン（平成28年3月策定）

- I 各中学校ブロックで、小中学校の校長が協議し、地域の子どもの現状と課題や義務教育卒業時に目指す子ども像、さらに目指す子ども像の実現に向けた「つきたい力」及び「軸となる取組・活動」などを明らかにする。
- II 「軸となる取組・活動」について、9年間の系統性のある年間計画を作成するとともに、「学びの約束・ルール」などを明確にする。
- III 小中一貫教育の企画・立案や各教科等における取組の推進体制について、**小中学校合同の部会**などを設け、教職員間の連携と協働を図る。
- IV 「つきたい力」の実現状況や「軸となる取組・活動」の評価を、**学校評価のPDCAサイクル（計画→実践→評価→改善）**を用いて続きを点検し、その質の向上を図る。
- V 小中一貫教育構想や「つきたい力」などの内容について、学校運営協議会や学校評議員と協議するとともに、保護者・地域への周知に努めるなど、家庭・地域との更なる連携・協力を進める。
また、**小中学校合同の学校運営協議会の設置**に向けた検討を進める。

10

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設一体型】

◆施設一体型
小中学校が同一施設、同一敷地内にあることを活用した小中一貫教育

・花背小中学校	【平成19年度】	} 【学年区分】 } 4・3・2制
・京都大原学院	【平成21年度】	
・東山開講館	【平成23年度】	
・凌風学園	【平成24年度】	
・向島秀蓮小中学校	【令和元年度】	
・京都京北小中学校	【令和2年度】	} 5・4制
・西陵小中学校	【平成30年度】	

11

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設一体型】

◆施設一体型
小中学校が同一施設、同一敷地内にあることを活用した
小中一貫教育

- 西陵ブロック（西陵中学校、福西小学校、竹の里小学校）
- 小栗栖ブロック（小栗栖中学校、小栗栖小学校、小栗栖宮山小学校、石田小学校）

【令和7年度開校予定】

12

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設一体型】

花青小中学校(平成19年度) 義務教育学校

- 3小3中学校が統合（市内中心部から車で1時間程度の山間部に位置）
- 全校児童生徒30名程度の小規模校、みんなのリビング（多目的空間）

京都大原学院(平成21年度) 義務教育学校

- 隣接する小中学校を施設一体型に整備
- 少子高齢化、若者の流出が顕著（特別風致地区、市街化調整地区）

東山開闢館(平成23年度) 義務教育学校

- 5小2中学校が統合（地元8学区一帯は番組小学校）
- 地域や社会を教材とし、探究力を育む「東山探究」（総合学習）や「開闢英語」（3年生から中学校教員指導による英語活動）等が特色

凌風学園(平成24年度) 義務教育学校

- 特区認定を受けた陶化中ブロックの3小11中学校が統合
- 異学年交流が特色（5～9年生徒会活動、5～9年部活動、1～4年縦割り給食）

13

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設一体型】

宕陰小中学校(平成30年度) 義務教育学校

- 全校児童生徒10名程度の小規模校
- 平成30年度、義務教育学校移行を機に、5-4制 施設一体型一貫校へ
- 6年生から50分授業、学級担任の見守りのもとで教科担任制

向島秀蓮小中学校(令和元年度) 義務教育学校

- 3小1中学校が統合（児童生徒数910名程度の大規模校）
- 平成31年4月、4-3-2制 施設一体型一貫校が開校
- 8～9年生全教科で1人の先生が複数学年を担当する「タテ持ちシステム」

京都京北小中学校(令和2年度) 義務教育学校

- 3小1中学校が統合（児童生徒数400名規模の学校）
- 令和2年4月、4-3-2制 施設一体型一貫校が開校
- 9年間で「学び」「地域創生」「育ち」を中心の「つながるがカリキュラム」

14

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設一体型】

◆校長ヒアリングから

- 一学年の学習集団が大きくなることにより、集団生活の中で幅広い人間関係が構築できるとともに、中学生が小学校低学年をしっかりとみたり、**1年生が9年生の姿を目標にするなどの教育効果が認められる。**
- 小学校、中学校という区切りがなくなり、小中学校9年間で発達段階、学びの段階を考慮したステージを設定することにより、**義務教育の連続性を切れ目なくつなぐことができている。**
- 職員室が一つであることによる情報交換、交流が密になり、**交流授業や生徒指導、進路指導に活かせる。**
- 小中学校間の交換授業、専科指導など、**常に児童生徒の学習状況に見合った指導体制が柔軟に組める。**
- 最高責任者である校長が一人のため、**負担が大きい。**（対外的な対応）
- 小学校、中学校という区切りがないことで、**双方の教育課程をつなぐ第2ステージ（5～7年生）の目指す姿が見えにくい。**

15

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設併用型】

◆施設併用型（学年区分5・4制）
小中学校の施設などが独立しながらも、児童生徒が柔軟に相互の校舎を活用した小中一貫教育

京都御池中学校ブロック(平成19年度)

- 元々5中学校あった地域（元学区14）で開校（開校者16年生まで）
- 6年生（御所東・御所南・高倉）が中学校校舎で学ぶ5-4制を採用
- 読解力（論理的思考力、問題解決力）を育成する読解科の取組

東山泉小中学校(平成26年度) 義務教育学校

- 3小学校を統合、中学校と合わせ、5-4制 施設併用型一貫校として開校
- 小学校敷地に新校舎（西学舎）整備（1～5年生が学ぶ第1ステージ）
- 中学校校舎を改修（東学舎）（6～9年生が学ぶ第2ステージ）
- 6年生から50分授業、学級担任の見守りの下で教科担任制

16

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【施設併用型】

◆校長ヒアリングから

- 6年生を「中等教育のスタート」としても位置付け、中学校教員が中学校の学習内容を考えながら小学校の授業に入ることができ、児童も中学校の学習を見据えて学びを進めることができる。
- 6年生の1年間を中学校の校舎で過ごした生徒は、**中学校生活にもすぐに慣れ、スタートを早く切ることにより、部活動も含めてゆとりを持った生活を送ることができている。**
- 学校行事は小学校で行うため、事前指導も含め、**6年生、指導者が小学校に移動する必要がある**など、物理的な負担が生じる。

17

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【連携型】

◆連携型（学年区分6・3制）
 小中学校の施設などが独立しながらも、
 教員と地域の緊密な連携による
 小中一貫教育

小中合同学校運営協議会
 発足式

京都市の小中一貫教育の基本は連携型
 （一体型8、併用型2、連携型5.5）

※2中4小や4中0小の
 ブロックを含む

学年区分	併用型	一体型	連携型	合計
1中0小	0	0	0	0
2中0小	2	6	0	8
3中0小	1	5	0	6
4中0小	0	0	7	7
5中0小	0	0	1	1
6中0小	0	0	2	2
7中0小	0	0	1	1
8中0小	0	0	1	1

18

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【連携型】

◆実施形態には施設一体型、施設併用型、連携型があるが、
京都市の小中一貫教育は連携型が基本

大切なのは、施設の在り方ではなくて、
 児童生徒・地域実態に対応した
 多様な形で小中一貫教育の推進である

中学校ブロックの校長同士が、お互いのビジョンを持ち寄り
 育てたい子ども像を共有して教職員に語りかけ、
 全ての教職員がその内容を理解して行動を共有できれば、
 小中一貫教育は6・3制の連携型でも十分に成果があがる

19

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【学校への支援】

- 小中一貫教育推進事業
 すべての中学校ブロックを対象に、
 京都市の「5つの視点」を踏まえた取組に対する**予算支援**
- 小中一貫教育に係る人事配置の工夫
 中学校ブロックからの申請に基づき、**人的配慮**を実施
 ①中学校ブロック内人事交流制度
 ②週2・7時間勤務の非常勤講師を配置
- 小中一貫教育に係る研修会の実施<平成30年まで>
 年1回全小中学校の管理職・教務主任を対象に、
 優れた取組や進めるべき方向性等に関する**研修会**を実施

20

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【成果】

- 意識改革
 - ◆教職員 中学校ブロック全体で学力向上を図る
 - ◆地 域 地域全体で子どもを育む
- 小学校同士の連携
 同じ中学校区内の小学校同士が、様々な取組に対して
 歩調を合わせて中学校へ進学させる。
 【例】話型・ノート・学習規律の統一、合同宿泊活動
- 学力向上・学力情報の共有
京都市小中一貫学習支援プログラムの実施を通して
 学力向上の成果や課題を共有し、改善策に取り組む。

21

京都市教育委員会

京都市の小中一貫教育【課題】

- 小中学校間での打合せおよび
研修時間の確保
- 9年間の系統性に配慮**した
 指導計画の作成・教材の開発

22

京都市教育委員会

開かれた学校づくりと小中一貫

学校・家庭・地域の「横のつながり」と校種間の
 「縦のつながり」を融合させた、大人も子どもも育つ、
 人育ちコミュニティの創生を目指す

- 小中一貫した学校評価
 小中学校で共通した評価項目を設定
- 小中合同の学校運営協議会の設置

①小中学校合同の学校運営協議会の設置（イメージ①）
 ②小中学校個々の学校運営協議会代表者による代表者会議の設置（イメージ②）
 ③中学校の学校運営協議会を代表とする小中合同の学校運営協議会の設置
 （イメージ③）

23

京都市教育委員会

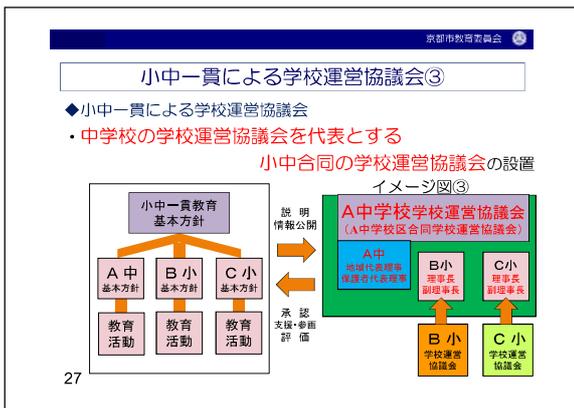
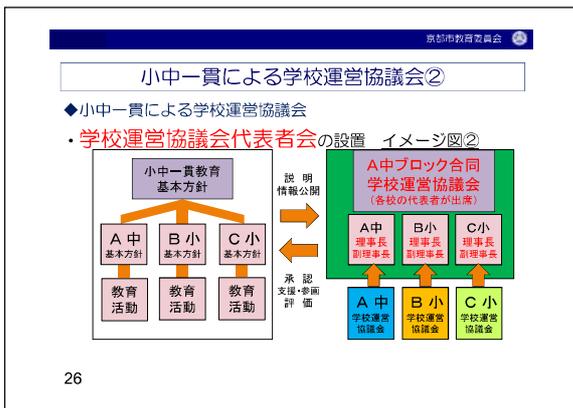
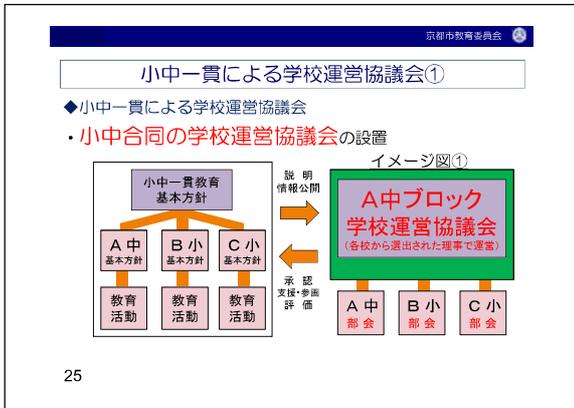
京都市の学校運営協議会

◆学校運営協議会の指定校数(令和3年10月28日現在)

校種	京都市の指定校数	京都市の学校に占める割合
幼稚園	15園	100.0%
小学校	* 153校	100.0%
中学校	* 64校	100.0%
小中学校(義務教育学校)	8校	100.0%
総合支援学校	8校	100.0%
合計	248校・園	100.0%

※うち、**小中合同の学校運営協議会を設置する中学校ブロック** 4.5校
(種別在籍学区：2中1ブロック、4中1ブロックを含む)

24



4-5 江別市小・中一貫教育推進フォーラム運営マニュアル

「江別市小・中学校一貫教育推進フォーラム」運営台本

時刻	日程	進行表	共同ホスト業務	進行係（井波）	ブレイクアウト係（秋山）
12:00 12:30	接続	ミーティングルーム開設（横山） ・共同ホスト割当て（横山） ・開会までの待機・氏名変更指示 スライドの共有（横山）	全員接続 名前変更 「氏名（運営）」	名前変更：井波義幸（運営）	名前変更：秋山太陽（運営）
13:00		参加者接続開始 吉川康浩氏接続	「氏名（運営）」とする。		ブレイクアウトルーム設定 （ルームを開けないよう注意）
13:15		・画面・音声ミュート、氏名変更 の指示（井波）	参加者への氏名変更 対応 （氏名がわからない 人に声をかけて、氏 名変更をしてあげ る） 例：2江別太郎 ↑ 分科会番号	「あと15分ほどで、江別市小・中学校一貫教育推進フォーラムを開始します。画面・音声をミュートにして、そのままお待ち下さい。なお、表示されている氏名の変更方法がわからない場合は、マイクをオンにして、ご氏名を教えてください。それでは、開始時間までお待ち下さい。」	ルーム名を変更 1. 環境整備 2. 教科指導 3. 生活指導 4. 児童生徒理解 5. ICT活用 6. 保護者の協力
13:25		・画面・音声ミュート、氏名変更 の指示（2回目） ・画面録画の了承		「まもなく江別市小・中学校一貫教育推進フォーラムを開始いたします。参加にあたり、皆様の画面と音声はミュートするようお願いいたします。また、表示氏名を変更できる方は、お名前がわかるように修正をお願いします。うまく変更できない方は、マイクを一度オンにして、ご氏名を教えてください。なお、途中の分科会では、画面や音声をオンにすることを求めることがありますので、ご協力をお願いいたします。また、本フォーラムは記録のため録画を致しますが、映像を外部に公開することはありませんので、ご了承をお願いいたします。まもなく開始いたします。そのままお待ち下さい。」	エクセルを使って、出欠のチェック 参加者のブレイクアウトルームへの配置作業

13:30	開会	・開会の言葉、進行自己紹介 ・開会画面スライド共有（横山） ・スライド共有停止（横山） ～開会挨拶～（横山） ・注意スライド共有（横山） ・注意事項、操作方法等の連絡 ・マイク、カメラミュートの話 ・リアクションのこと ・質問、チャットのこと ・氏名の変更について	録画開始 氏名変更の申し出があれば、すぐに変更の作業をする。	「お時間になりました。皆様、本日はお忙しい中お集まりくださり、ありがとうございます。只今より、江別市小・中学校一貫教育推進フォーラムを開始いたします。私は、本日の進行を務めます、北翔大学4年井波義幸です。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに、本フォーラムを企画しました、江別の学びの連続性に関する研究グループ代表の横山から挨拶です。」 「ありがとうございました。それでは、本フォーラムを行うにあたり、いくつかの注意点を引き続き横山から説明いたします。」	参加者のブレイクアウトルームへの配置作業 この時点で、名前表示が変わっていない人は保留。 参加者のブレイクアウトルームへの配置作業（追加）
13:35	全体会 ①	・全体会開始アナウンス ・全体会スライド共有（横山） ・全体会説明（横山） 1. 本フォーラムのねらいと内容について 2. 江別市の中一貫教育について（主にスケジュール）		スライドに「全体会①」と表示されたら 「それでは、これより全体会および、基調講演を開始します。まずは本フォーラムのねらい、内容、江別市の中一貫教育の概要について、横山より説明をいたします。よろしく申し上げます。」	

13:50	基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演開始アナウンス ・講演スライド共有（横山） ・講師紹介（横山） 	スライドは横山が共有・操作するが、横山がフリーズした場合は、大綱くんが自分のPCから同じファイルを立ち上げ、引き続き操作を行う（スライドデータはpdfです。）	「ありがとうございました。続いて基調講演に移ります。基調講演の進行は横山が行います。引き続きよろしくお願ひします。」	
14:25頃		<ul style="list-style-type: none"> ・質疑 「それでは進行を司会に戻します（横山）」 	録画終了	横山進行 (休憩時間にくい返んでも良い)	
14:30	休憩	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩後のブレイクアウトルーム移動についての連絡（接続は切らない、移動指示に従い移動） 		「分科会を始める前に、準備のため一度休憩に入ります。皆様はzoomの接続をしたままでお待ち下さい。休憩時間中にzoom画面にブレイクアウトルームへの招待が表示されますので、参加のボタンをクリックしてください。自動的に分科会のルームに振り分けられます。分科会の開始は14時40分です。それまでに、「参加」ボタンを押して移動し、開始時間まで接続したままお待ちください。」	
14:35		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のブレイクアウトルームへの振り分け ・ブレイクアウトできていない参加者の対応 →移動先ルームへの連絡 	<p>氏名変更の申し出があれば、すぐに変更の作業をする。</p> <p>麻生（第1） 宮下、濱谷（第2） 大綱、奥山（第4） 船場（第5）</p>	<p>氏名の変っていない人に声をかけて、氏名を訊ねる。</p> <p>→第3分科会の運営補助へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルでの出欠チェック ・ミーティングルームを開く <p>→第6分科会の運営補助へ</p>

14:40	分科会	<ul style="list-style-type: none"> ※共同ホスト学生は、運営者のサポートを行う。 ・分科会内での録画開始 ・分科会でのチャット内容の進行教員と共有 ・分科会中の音声ミュート・解除等のサポート 	<p>録画開始</p> <p>※録画データはPCに保存、後日共有する。</p>	<p>録画開始</p> <p>※録画データはPCに保存、後日共有する。</p>	<p>録画開始</p> <p>※録画データはPCに保存、後日共有する。</p>
15:15		<ul style="list-style-type: none"> ・残り時間のアナウンス 	<p>担当教員に声をかける。</p> <p>「〇〇先生、あと5分です。」</p>	<p>担当教員に声をかける。</p> <p>「〇〇先生、あと5分です。」</p>	<p>担当教員に声をかける。</p> <p>「〇〇先生、あと5分です。」</p>
15:20	休憩	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレイクアウトルームは自動解除となることの連絡 	<p>「運営からの連絡があります。15時30分から全体会が始まりますが、自動的に接続が変更されますので、退出をせずにそのまま接続しておいてください。接続変更された後は、始まるまでそのまま待機してください。」</p>	<p>「運営からの連絡があります。15時30分から全体会が始まりますが、自動的に接続が変更されますので、退出をせずにそのまま接続しておいてください。接続変更された後は、始まるまでそのまま待機してください。」</p> <p>自分だけ先にブレイクアウトルームから退出し、全体のミーティングルームにて分科会終了を秋山に報告する。</p>	<p>「運営からの連絡があります。15時30分から全体会が始まりますが、自動的に接続が変更されますので、退出をせずにそのまま接続しておいてください。接続変更された後は、始まるまでそのまま待機してください。」</p> <p>自分だけ先にブレイクアウトルームから退出し、全体のミーティングルームにて分科会終了の報告をうける</p>
15:25		<ul style="list-style-type: none"> ・ブレイクアウトルームの強制解除 	<p>自分だけ先にブレイクアウトルームから退出し、全体のミーティングルームにて分科会終了を秋山に報告する。</p>		<p>6つの分科会全て終了していることを確認したら、ブレイクアウトルームを閉じる。</p>

15:30	全体会 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会開始アナウンス 	録画開始	「時間になりましたので、これよりまとめの全体会を開始します。全体会の進行は横山が行います。よろしくお願ひします。」	
15:42		<ul style="list-style-type: none"> 全体会開始 ・各分科会からの報告（各2分） 			
15:45		<ul style="list-style-type: none"> ※報告者は分科会内でお願ひしておく ・参加者からの感想（教員、保護者、学生各1名、各1分以内） ・総括（横山） 可能なら吉川氏から 			
15:50	閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会式開始 ・閉会の挨拶（西出） ・連絡事項（横山） →アンケートの話 ・閉会の言葉 	録画終了	<p>「これより、江別市小・中学校一貫教育推進フォーラムの閉会式を始めます。北翔大学教育文化学部教育学科 西出勉より閉会の挨拶をいただきます。よろしくお願ひします。」</p> <p>「ありがとうございました。次に、運営の横山より、連絡事項があります。よろしくお願ひします。」</p> <p>「以上で、江別市小・中学校一貫教育推進フォーラムの全てのプログラムを終了いたします。どうもありがとうございました。」</p>	退出せず、そのまま残る。
			退出せず、そのまま残る。		退出せず、そのまま残る。

4-6 江別市小・中一貫教育推進フォーラム文字起こし記録

(別冊)